

## 平成 23 年度秋季放射線分科会幹事会 議事録

日時 平成 23 年 8 月 29 日(月) 12:00 ~ 13:00

場所 山形大学 地域教育文化学部 1 号館 3 階 - 共通 14 演習室

出席者: 神野郁夫(京大)、渡辺賢一(名大)、山田崇裕(アイソトープ協会)、吉田英治(放医研)、斉藤  
勇一(JAEA)、若林源一郎(近大)、牧大介(千代田テクノル)、安田良(JAEA)、永田晋二(東  
北大)、成山展照(JASRI)、宮丸広幸(大阪府立大)、緒方良至(名大、プログラム編集委員)  
オブザーバ: 南戸秀仁(金工大)、豊川秀訓(JASRI)

### 配布資料

1. 資料 1 平成 23 年度春季放射線分科会幹事会議事録(案)
2. 夏の学校
  - 資料 2-1 「第 23 回放射線夏の学校」報告
  - 資料 2-2 これまでの夏の学校開催地
3. 会誌「放射線」出版について
  - 資料 3-1 会誌「放射線」出版状況
4. 「学術講演会 シンポジウム」
  - 資料 4-1 2012 年春シンポジウム企画案
  - 資料 4-3 1989 年以降のシンポジウムテーマ一覧
5. 放射線賞について
  - 資料 5-1 第 16 回「放射線賞」選考結果について
  - 資料 5-2 第 17 回「放射線賞」募集について
6. 幹事選出
  - 資料 6-1 次期幹事選出について
  - 資料 6-2 歴代幹事(2000 年以降)
7. 2012 年度 事業計画について
  - 資料 7 2012 年度 事業計画
8. その他
  - 資料 8 放射線分科講演数の変化

### 議題

#### 1. 前回議事録確認

資料 1 により平成 22 年秋季放射線分科会幹事会議事録の確認が行われ、了承された。

#### 2. 2011 年夏の学校報告・来年度の夏の学校について

渡辺より資料 2 - 1 に基づき、2011 年度の夏の学校の収支報告等について報告があった。8 万円ほどの赤字であったが、前年度が黒字で事業自体としては余裕がある状況である旨確認が行われた。また、来年度の夏の学校の担当が産総研佐藤泰氏であることが報告された。

#### 3. 会誌出版計画、編集進捗状況等

渡辺より資料 3 - 1 に基づき、進捗状況および出版計画について説明があった。Vol.37, No.3 の進捗が少し遅れ気味ではあるものの、おおむね順調に進んでいることが確認された。

また、神野幹事長より、投稿記事も随時受け付けるので、分科会活動の活性化につながるよう、積極的に活用していく旨確認がなされた。

#### 4. シンポジウム・研究会・講演会企画

永田幹事より資料 4 - 1 に基づき説明がなされた。案 1、春季講演会シンポジウムの復活については、

予稿集のみとはいえ、既に実施済み扱いであるし、放射線にも掲載されるので、却下。案2:「東日本大震災・原発事故から1年を経て」を採用することに。実際に事故対応で作業をされた方々に、現状の問題点等について議論するのは、事故から1年を迎える次の春季講演会のシンポジウムとしては意味があるという意見が多数。パネラーの候補としては、JAEA(安田幹事等)、千代田テクニカル(牧幹事等)、土壌分析関連・放射化学会等(緒方委員等)、放医研(安田幹事等)。11月末にはシンポジウムの申し込み締め切りがあり、そこまでに演者等も確定する必要があるため、担当の吉田幹事、永田幹事で、もう少し具体的に議論頂き、9月末を目処に幹事にメールで確認を。

#### 5. 放射線賞について

渡辺より資料5-1に基づき、第17回放射線賞の選考結果について説明があった。春の幹事会(メール審議)での決定事項であるが、次回第18回より放射線賞と放射線奨励賞を分けて募集することが再確認された。

#### 6. 次期幹事選出について

渡辺より資料6-1に基づき、次期幹事の選出方法について説明があった。次の春で退任される幹事は、原則として後任候補を推薦すること。推薦候補がない場合は、速やかに幹事長、副幹事長に連絡すること。次期幹事候補の推薦締め切りは10月末。副幹事長渡辺まで。

講演企画運営委員・プログラム編成委員の緒方委員の後任は、徳島大 伏見先生から内諾。

人見委員の後任選びは、人見委員に一任。

#### 7. 2011年度事業計画について

神野幹事長より資料7に基づき説明があった。特に新規の事業はないが、これまで通り、研究会等の事業を進めていく予定。

#### 8. その他

・今回、少し少ないが講演者数は70-90件を維持しているので、今後もご協力お願いします。

・オブザーバのJASRI 豊川氏より来年9月開催のPixel検出器の国際会議への協力依頼があった。

・放射線の大分類番号が、計測・制御と応用物理一般が合併する兼ね合いで、従来の番号1から2へ変更される公算が大きいことが報告された。本件に関しては、幹事会としては止むを得ないとの意見が大半を占めた。

以上

文責 名大 渡辺賢一